

「3 外出中に大地震が起きたら」

- 学習のねらい： 1. 屋外で、どのような危険が起こるかを知る。
 2. 状況ごとの適切な危険回避の方法を知る。
 3. 避難場所や避難時に注意すべきことを知る。

(指導上のポイント)

◆生徒が危険と考えた理由についても発表させる。

◆地震発生時の初期対応として「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所を見つけ出してすばやく身を寄せ、自分で自分の命を守ることを指導する。

◆津波のおそれのある場合や津波警報が発表され浸水被害の危険がある場合は高台へ、土砂災害等の危険がある場合はあらかじめ危険箇所を知っておき、危険箇所から離れた場所へ避難することを指導する。

《参考》

○写真以外に起こり得る危険

【屋外】家の屋根・壁の剥落、石垣やブロック塀の崩落、自動販売機の転倒、階段からの転落、切れた電線の電流による感電、家屋の倒壊、火災・爆発、液状化、電車の急ブレーキや脱線、トンネルの崩壊、など

【屋内】時計や照明、天井材など非構造部材の落下、商品棚の転倒、防火扉の損壊、火災やそれにより生じる煙・有毒ガスの吸引など

3 外出中に大地震が起きたら

(1) 屋外での危険と回避方法
 あなたの通学路やよく行く場所について、どのような危険があるかを考えて書いてください。
 また、写真を参考に危険の避け方も書きましょう。

| 場所 | 考えられる危険 | 危険の避け方 |
|--------|---|--|
| 例) 〇〇駅 | パニックになった人たちが出口に集中するのに巻き込まれる。 線路に落ちる。 | 大きな柱の近くや広い場所に行って、揺れがおさまるまでそこにいる。 |
| バス | 車内で転倒し、けがをする。 | つり革や手すりにつかまる。 乗務員の指示に従う。 |
| デパート | 窓ガラスが落下する。 陳列品が飛散する。 | カバンなどで頭を守る。係員の指示に従う。 |
| 映画館 | 照明器具が落下し、多数の人がパニックになる。 | 座席を上げてしゃがみ、カバンなどで頭を守る。係員の指示に従う。 |
| エレベーター | エレベーターが停止し閉じ込められる。 | 全ての階のボタンを押すか、非常用ボタンを押す。 落ち着いて救出を待つ。 |

これまでに発生した、「揺れ」による被害写真

落下した屋外看板
 倒れたブロック塀
 破損・落下した窓ガラス
 破壊された住宅街
 突き出したマンホール

(次年度以降の展開例)

- ・ 通学路（または学校や自宅の周辺）の地図を用意し、どのような危険が発生するかを考えさせる。
 - ・ 登下校時の避難行動の訓練や防災タウンウォッチングの際に活用する。
- などが考えられる。

(2) 通学路での安全な場所と避難行動

あなたの通学路の近くにある「安全と思われる場所」とその理由を書いてください。また、揺れが収まった後の行動も書きましょう。

| 場所 | 安全と思う理由 | 揺れが収まった後の行動 |
|----------------|------------------|-------------------------|
| 例) 〇〇工場の駐車場 | 広くて、 周りに何も無い。 | 近くの △△小学校へ行く。 |
| 〇〇公園 | 一時避難場所に指定されている。 | 津波の心配はないので、 中学校へ向かう。 |
| 〇〇コンビニ 駐車上 | 広くて周りになにもない。 | 余震に気を付けて、指定 避難場所へいく。 |
| 〇〇体育館駐車場 | 広くて安全である。 | 津波警報がでるので高 台へ向かう。 |

※公共交通機関を利用する人は、最も利用する手段について、調べてみましょう。

| 交通機関名 | 地震時の対応 | 安全になった後の行動 |
|-------|-----------------------------|----------------------|
| バス | つり革や手すりにつかまる。乗務員の指示に従い避難する。 | スマホで津波の確認を行い、自宅へ向かう。 |

ヒント 何に対して「安全」かを揺れから身を守り、その後なるべく早いところへ避難すること、また、大きな地震が起きて避難した後、さらに大きな地震が発生することも想定して次の行動を考えるなど、二段構えの対応をしましょう。

関連学習：

ワークシート③

「通学路上の避難マップを作成する」

ワークシート④

「家族の避難先を知って、連絡を取る」

東京スカイツリーの下にいる時に地震が起こり、物が落ちてこない場所に素早く移動し、係員の指示に従って近くの公園に避難した。

(指導上のポイント)

◆通学路付近での避難場所（家と学校以外）を書かせ、地震後の街の被害も念頭に置きながら、その後の行動も書かせる。

◆巨大地震が発生すると、沿岸部への津波の襲来や余震による家屋倒壊などの2次被害の可能性があるので、早い段階から命を守る行動を取る必要があることを指導する。

◆時間があれば、通学以外で公共交通機関に乗車していた場合、地震時にどう対応するか考えさせる。

◆津波浸水が予測される地域では、津波浸水予測範囲

(参照：三重県防災対策部HP

http://www.bosaimie.jp/resource/1495426761000/X_MIE_ne000)

で、津波の浸水地域を示し、「ここまで津波が来るかもしれない」と説明する。予測は、あくまで一つの目安なので、「ここから先は大丈夫」と考えず、とにかく地震発生時には、川や海に近づかないように指導する。

(指導上のポイント)

◆全国どこでもいつでも地震が発生する可能性があるため、地震から自分の身を守るため、前ページの危険回避方法を理解しておくよう指導する。

◆連絡先や集合場所等を家族で話し合っておくことを指導する。

(確認)

危険を知り、適切な回避行動を考えておく必要があることを理解できたか。

《重要》

○外出先で考えられる危険回避方法

地域や場所により考えられる危険はさまざまだが、以下の原則を守るよう指導する。

①危険が考えられる場所から離れる。

②駐車場など広い空間へ逃げ、カバンなどで頭を守る、だんごむしのポーズなどの体勢をとる。

③揺れそのものだけでなく、続いて起こり得る火災、パニックになった群集、停電で信号が停止し、混乱する車等にも注意する。

④係員や車掌の誘導、館内アナウンス、誘導灯・誘導標識に従う。流言飛語に浮足立たない。

⑤津波の恐れがある地域では、揺れがおさまったらすぐに高台などへ逃げる。